



学校だより

2月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

和太鼓から学ぶ

副校長 山下 謙一郎

梅のつぼみが少しずつ膨らみ始め、寒い毎日の中にも春の兆しが見える季節となりました。今年はずいぶん暖冬といえるでしょう。厳しい朝の寒さを迎えても、日中は暖かい日差しの中で子どもたちは元気に活動している様子が見られます。2月は、異名で「如月」と書きますが、日ごとに暖かくなるので「気更来」、また木が生え始めるので「生更来」、「息更来」と綴ることもあるそうです。日毎に春に一步ずつ近づいていく、そんな時期なのですね。

さて、1月は区や地域で新年会が開かれることが多く、学校からも児童が参加する機会がいくつかありました。緑園連合の新年会では、和太鼓で出演する機会をいただき、緑園東小学校キッズクラブ和太鼓サークルによる和太鼓演奏、緑園西小学校5年生の和太鼓演奏と、どちらも力のこもった新年を祝うにふさわしい素晴らしい発表となりました。

私も教諭の頃、子どもたちと学習の中で和太鼓に取り組む機会がありました。和太鼓には多くの魅力が詰まっています。小さい頃に育みたい素地をたくさん広げる可能性をもっています。

まずは健康的な体づくり。体を大きく動かす和太鼓は体幹を鍛えます。また、正しい姿勢を身に付けるだけでなく、脳の活性化やリラックスにも役立つという報告もあるようです。

次に、礼儀作法を大事にします。礼に始まり、礼に終わる。挨拶の仕方や声の大きさなど、演奏の中で、自然と身に付けていくことができます。

また、団体演奏が基本であるため、仲間たちと音を合わせるということから、協調性を身に付けられます。自分だけが上手に叩ければいいというのではなく、全体のバランスを考えたり、仲間をフォローしたりしながら、集団での達成感を喜びとすることができます。

さらに、表現力が磨かれます。高学年になるとみんなの前で表現することに照れや恥ずかしさが出てくるものですが、和太鼓のパフォーマンスは、見た目の美しさやかっこよさを素直に追究できる魅力があります。

最後に、日本の伝統文化に対する知識や理解が深まります。「和」の心にふれることで、国際的に日本文化を紹介する場などでも話のきっかけにもつながるかもしれません。

スポーツ的な要素もありながら、音楽的な要素も持ち合わせている和太鼓は、男女関係なく一緒に楽しめるよさがあります。運動が苦手でも、譜面が読めなくても、やってみようという気持ちがあれば誰にでも気軽に取り組める和太鼓。日本が誇る素晴らしい学習材の一つとっていいのではないのでしょうか。

今日も耳を澄ますと、体育館から子どもたちの和太鼓を打つ音が心地よく響いてきます。緑園のまちに元気を届ける和太鼓の音を、これからも絶やさないようにしていきたいです。